

## 「いじめの問題への取り組みの実態調査報告」

## 実践事例

## 1 実践の概要

## (1) 取り組みのねらい

- いじめの早期発見に努める。
- 思いやりの心を育てる。

## (2) 取り組みの内容

- いじめのアンケートを行い、実態を把握できるようにする。
- 生徒指導定例会で、児童の共通理解を深める。
- ちょっとしたボランティアの「チョボラの木」友達のよさを発見する「キラリの木」の活用で友達のよさを見つける。
- 家庭・地域との連携を図る。

## 2 実践の成果（態度・心情面やいじめの解決など）

- アンケート調査により、日頃直接教師に話せない児童も、担任に自分の心の中を伝えることができ、大きな問題なる前にいじめの芽を解決することができた。
- 定例会で児童の実態を全職員で把握し、共通理解のもとで指導にあたることができた。
- あいさつ、返事、言葉使い等、日頃から相手を思いやり心をこめた言動が身に付きつつある。
- 学習ファイルの家庭からの通信欄で、担任が把握できなかったような情報が保護者から得られ生徒指導に活用できた。

## 3 取り組みの評価（対応についての評価）

- アンケートは、6月と9月に行うが、それ以外の方法でも一人一人の実態把握に努めていく必要がある。
- 定例会で児童の理解を深めることができるが、定例会に限らず打合せ等様々な機会をとらえて児童の情報交換をしていくよう心がけていくことが大切である。
- 学校の様子だけでなく、家庭での様子を学習ファイル等を活用して理解できるようにしていく必要がある。

## 4 実践に関する資料（学習カード等）

- いじめに関するアンケート
- 月のめあて、生活のめあての掲示
- 「チョボラの木」「キラリの木」の掲示
- 学習ファイルの作成と配布